

■ R. シュトラウス / 交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」Op.28

R. シュトラウスの交響詩でも随一の人気を誇るこの作品は、意外にも神奈川フィルの定期では初めての演奏だという。ドイツ音楽には珍しくユーモアやウィットのある軽妙な音の世界で、大編成のオーケストラを用いながら、巧みな楽器法で情景を鮮やかに呼び起こす。

描かれているのは 14 世紀ドイツの農夫のいたずら息子による放浪譚。プロローグとエピローグは「むかしむかし」という語り口を思わせる楽想をヴァイオリンが奏で、ティルの主題をホルンが呈示する。3 回反復される上行モチーフに活気が漲り、拍節構造から外れていくリズム構造が破天荒な主人公のキャラクターを象徴する。続いて、ロンド形式を下敷きにエピソードが続く。馬で市場に乗り込み、僧衣をまとって道徳を説くシーンでは揶揄するような厳粛な楽想となる。騎士に扮したティルは弦楽器の豊かなハーモニーにのせて美しい娘に求愛。断られるや金管楽器の音型で復讐を誓い、木管によるカノンが象徴する学者たちの論争ののち裁判にかかれ、絞首刑となるという展開だ。

この曲はヘ長調だが、R. シュトラウスはやや軟弱な男性を描くときにこの調を使ったと言う。世紀末の閉塞的な気分を吹き飛ばす痛快な響きが初演の大成功を導いたのだろう。ちなみに、前半のブラームスの交響曲第 3 番と同じ調性で、まとまりの良いプログラムとなっている。

音楽学者 白石美雪

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。

【楽器編成】ピッコロ、フルート 3、オーボエ 3、イングリッシュホルン、

クラリネット 3、バスクラリネット、ファゴット 3、コントラファゴット、ホルン 4、

トランペット 3、トロンボーン 3、チューバ、ティンパニ、スネアドラム、バスクラリネット、

トライアングル、シンバル、ラチェット、

弦五部 ※スコア上の表記